



コミ・プラ  
マスクottキャラクター  
『ホッホ君』



公民館  
インスタグラム  
FUJIMI COMMUNITY PLAZA

# ふじみ町 公民館報

〒399-0211

長野県諏訪郡富士見町富士見 3597-1  
コミュニティ・プラザ内 富士見町公民館  
Eメール : kouminkan@town.fujimi.lg.jp

No.743

令和7年11月1日

発行 富士見町公民館  
編集 公民館報編集委員会  
TEL 0266(62)7900  
FAX 0266(62)7611

## 富士見高原の自然の神秘 ～人の生き方を教えてくれている～



高原晴雨

一枚だけ出しにいった。すでにいろいろなものが  
公民館の片隅に集まっている光景を眺めながら、  
誰かの家で長い間活躍してきたものや、役目を終  
えて押し入れの奥で眠っていた物たちがとうとう  
放出されたんだなあと、勝手に想像して感慨深く  
感じた。

物を手放すことは、心の状態によっては難しい  
こともある。ごみは捨てられるけど、ごみと思え  
ないものは捨てられないし、いろいろな理由としがらみと踏  
ん切りのつかなさで手放せない。そんな物の存在感を暮らし  
の空間に無意識とはいえ感じながら暮らしていると、自分  
の行動力や思考力の重さ軽さに影響をあたえているなど感じる。  
私の場合は、自分の物なのに要るかいらないかの判断がで  
きなくて、ただ時が過ぎるままに置いてある状態や、持つて  
いる服を把握していく前に買った服と同じ服を買つてい  
たことに後から気づいたこともある。挙句の果てには、目・  
鼻・口がついているものは捨てるのはかわいそだなど感じ  
てしまい、まるで自分の心の輪郭がぼやけて物の存在感に浸  
食されている感じだった。

いっぽう、そこに在ることでほっとしたり元気になれたり  
楽しかったりする物の比率が高いほど、そこは居心地のいい  
場所になる。居心地よく感じる空間は一人ひとり千差万別だ。  
私は観葉植物や、光や風で動くものがあるといなと思う。  
が来る。少しずつ気力が湧いて、自分の身体を自分でいたわ  
れるようになり、心の輪郭が再びはつきりしてきて、物の要  
いるいらないをようやく判断できるようになってきた。いらな  
い物を手放して部屋の空間が増えていくことで感じられる身  
軽さを実感できる頃には、いろいろなことが相関しながらさ  
らに変化していく。

自分のスペースにある物を見渡してみれば、心の余白具合  
も知ることができる。

岩田 良子

## 特集

### 富士見高原の自然の神秘 ～人の生き方を教えてくれる～

春 人も自然もすべてがつながりあつていて。全ての出会いに意味があり、その出会いに感謝して、周りの方、生き物、自然に生かされている自分で精いっぱい生きていきたい。

富士見の自然は四季折々の姿と神秘的な姿を見せてくれます。しかも、私たち人間に生き方までも示唆してくれるようです。今回はこのことを季節ごとにまとめてみました。

さらに、自然界の生き物からは教えてもらうことがあります。その場所を移動することも、自然界では行われています。疲れたら、休んで立ち止まって、またエネルギーをためて動き出す。自分に合ったところを探すもいい。いろんな動物たちは、そうして生きているのだから。



「水芭蕉」



「入笠湿原」



「井戸尻史跡公園」



「富士見高原リゾート鹿の池」

### 自然から教えてもらうこと

## 【夏】蓮と睡蓮のちがい

代バス（大賀バス）が私は好きです。二千年前の古代から蘇った古代バスと言われ、蓮の果実の皮は厚く、土中で長時間発芽する能力を保っていたそうです。また、泥の中でも、美しい花を咲かせる葉っぱに特徴があり、水分や

富士見町の蓮といえば、井戸尻史跡公園の大賀蓮。睡蓮といえば、富士見高原リゾートの鹿の池に浮かぶ、睡蓮が私は好きです。

花の違いは、蓮は7月に水面から高い位置に早朝に咲き、昼間閉じます。開花期間はわずか四日間で、四日目は夕方まで咲き、開ききって、散つて、愛おしさを感じます。咲き終わると花托ができるハチの巣みたいな、シャワーへッドみたいな形を残します。

睡蓮は水面に浮かび、昼間ずっと咲いていて、太陽の光が弱まると花を閉じ、「眠る蓮」と呼ばれています。咲き終わった後は、とじたまま花は散らず、しばらく沈んでいく潔さを感じます。似ているけど、最後の咲終わりの違いが、なんとも、神秘的です。

特に、蓮は、井戸尻史跡公園の古

泥水が、丸く浮いて、葉っぱを転がしていく神秘的な姿が美しいです。一度枯れても再び芽を出す再生復活の象徴とも言われています。花はお茶、実は漢方や生け花、地下茎は蓮根に（ただし、観賞用は細すぎて食用には向き）、無駄なものは一つもありません。

### 自然から教えてもらうこと

夏 困難な状況でも、美しさを保つ力、逆境にも負けずに成長し続ける内面の精神力の強さ。たとえ、泥沼な今的人生と感じても、必ず、再生復活できるチャンスがあるのだと教えてくれている気がします。泥がまた大切で、一見、どろどろした人生と思われがちだが、肥料が豊かで、土が肥えているきれいな花を咲かせる土台の土を大切に、見えないところの土を豊かにする人生が大切だと教えてくれている気がします。そして、蓮の無駄なところがないことから、すべての命には役割があるって、我々の生まれてきたことにも意味があり、一人一人がかけがえのない命だと思って生きていきたいです。

春の代名詞といえば、水芭蕉。入笠湿原に現れる水芭蕉が私は好きです。どのように子孫を増やしているのでしょうか。写真にヒントがあります。川沿いに芽を出していますね。水の流れで種を運んでいて、たまたま流れで止まつたところで芽を出しています。動かすように、自然界の生き物は、周りの水、木、風とかかわり子孫を増やし、つながり合って生きています。動物に食べてもらって、移動して、糞の中に種があり、運ばれたり、風で飛ばされたりしていますね。今、ここで、たまたまついた、置かれた場所で、精一杯咲いています。

## 【春】水芭蕉

富士見の自然は四季折々の姿と神秘的な姿を見せてくれます。しかも、私たち人間に生き方までも示唆してくれるようです。今回はこのことを季節ごとにまとめてみました。

## 【秋】落ち葉の虫食い



「富士見町 神戸の森にて」

虫たちも、鳥や小動物に食べてもらつて、食物連鎖でつながりあって、生態系ピラミッドが出来上がり、自然の調和がとれています。

自然から教えてもらうこと

まず、なぜ落葉するのでしょうか？ 夏は太陽の光と暖かさから葉っぱで一生懸命光合成をして栄養を作つてします。冬は寒いから、光合成を行う力が弱まります。それなのに、太陽の光が当たるから、無理するのだそうです。

大事な幹までも枯れるので、秋になると、葉緑体を幹に戻し紅か茶色にして、葉っぱにある栄養分を幹に回収して、ほとんどの樹は葉っぱを落として、「休む」「眠る」ことに専念するそうです。

落ちた葉っぱは、土に戻り、腐葉土となり、大事な木の栄養や、次の生命誕生、そして、新芽の成長にかかる大切な役割があるのですね。こうして、自然は循環してつながっています。

また、落ちる前や落ちた後の葉っぱをよく見てみると、虫食いの穴があります。この虫食いも可愛らしいです。虫たちのエネルギーになり、これを食べた

秋 冬の木のように、時には、ほどんど何もないことを、自分に許し、ゆつたり眠つて過ごす。休む時は思いっきり休む。休むチャンスを見逃さないのも、生きていくりズムを作る大切なことだと思います。穴が空いていることは決して恥ずかしいことではない。その人らしい、弱さも認め合える。完璧を目指すだけでなく、不完全も許し合える、それぞれの個性や魅力を認め合う。

そのためには「なんでも言い合える」から「何でも聞きあえる」へ。「幸せ」だけでなく、「苦しみも分かち合える」社会になるといい。



「入笠山」

かれています。そして、すべての葉っぱが、まんべんなく、日光を浴びられるように、工夫されているようです。

ては「技(わざ)」になる。それが、他人から、価値を見出しあれたら、仕事になってしまいます。人の役に立つた時に、自分の価値が高まってプロになつてきますよね。だから、いつでも、いろんな枝を張り巡らせ、生涯まなび続けることが大切だと思っています。

「何のために生まれて、何をして生きるのか」人の役に立てるよう、今を精一杯生きていきたいです。

## あとがき

一年を通して、私たちの生活や風景・自然の中にある四季を愛する心を大切にしたいです。「今ここで」その季節の美しいものを美しいと思え、その良さを楽しみ、感じて動きたい。

冬の樹は枯れていますか？花や葉っぱはないけれど、生きていますね。一見、華やかではなく幹と枝だけで冬の樹は枯れていますか？花や葉っぱはないけれど、生きていますね。幹は支えられていく。一つのことしか挑戦しないと、元の幹は倒れてしまう。いろんな挑戦の枝があれば、たとえ、一つの枝が折れても、他の枝が支えている。自分に合ったものが見つかったら、その「枝」を磨く。自分の強みを見つけて「枝」を磨けば、それがやが

ては「技(わざ)」になる。それが、他人から、価値を見出しあれたら、仕事になってしまいます。人の役に立つた時に、自分の価値が高まってプロになつてきますよね。だから、いつでも、いろんな枝を張り巡らせ、生涯まなび続けることが大切だと思っています。

「何のために生まれて、何をして生きるのか」人の役に立てるよう、今を精一杯生きていきたいです。

小林 伸治